

平成 23 年 4 月 20 日

関係者 各位

「沖縄でニッポンを復興させる会」設立趣旨書

今回の東北地方太平洋沖地震等に伴う被災者の皆さんにお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興と復旧が訪れますよう、心より祈願いたします。

さて、本会は、今回被災に遭われた東北の方々の住宅の提供、及び一時的かつ持続的な就業と生活の援助に取り組みたいと考えているものです。具体的には、津波の影響や放射能の影響により土壌が汚染され、作付などが行うことのできない農・水産業従事者を対象に、県内の自治体にご協力を頂き、耕作放棄地や漁港などを提供してもらい、沖縄の農・水産業従事者と東北の津波や放射能に被災された農・水産業従事者をマッチングさせ、沖縄の援農・漁業支援および、農・水産業のプロによる技術提供を受けながら、互いに第1次産業の生産向上を目的とした支援プロジェクトを進行していきたいと考えております。

今こそ、未曾有のニッポンの国難を克服するために、まずは被災者の方々に一旦沖縄に避難していただき、沖縄県民とともに新しいニッポンの復興のために共に第一次産業から立ち上げていく、そのためにこのたび「沖縄でニッポンを復興させる会」を設立しました。

どうか、一つでも多くの自治体に、一人でも多くの方々にご賛同いただき、ぜひとも、皆様にご協力をお願いしたいと存じます。

「沖縄でニッポンを復興させる会」推進協議会メンバー

NPO 法人食の風 代表 田崎聡

NPO 法人スローフードジャパン沖縄・奄美支部

NPO 法人パーマカルチャーネットワークオキナワ 代表 坂井正吾

株式会社沖縄ロングステイ 代表 円尾伸三

株式会社琉信ハウジング 代表取締役社長 新城満

沖縄県農業協同組合（JA おきなわ）農家支援センター統括本部長 金城巖

有限会社GO-YA 取締役 種子田稔

宜野座村

協力：東北太平洋沖地震沖縄県支援対策本部（沖縄県知事公室防災危機管理課）

NHK 沖縄 福島放送

【問合せ】 沖縄でニッポンを復興させる会推進協議会事務局
会長 田崎聡 事務局 永峯さゆり（NPO法人食の風事務局内）
〒900-0023 沖縄県那覇市楚辺1-14-39-2階
電話 098-835-2540 FAX 098-836-5818
Mail:nagamine@rakuen-keikaku.com

手始めに行うこと

1. 対象者 東北（福島県にて農・水産業に従事し被災に遭われた方）
※罹災証明書（後日でも可）又は住所が確認できる証書（運転免許証等）をご持参
※福島原発の事故に伴う避難指示がなされている地域に居住している方
2. 入居形態 目的外使用による一時的な入居
3. 入居期間 原則1年間
4. 使用料免除（0円）
5. 敷金 礼金などは徴収しない
6. 共益費・水道光熱費・生活用品等 … 自己負担
7. 空家数（15組を希望） 15戸（もしくは15部屋）程度
8. 受付期間及び受付時間
平成23年5月中旬～人数に達する迄 午前9時00分～午後6時
9. 受付場所及び問い合わせ先 NPO法人食の風 被災者支援事務局
電話 098-835-2540 FAX 098-836-5818
10. 受付方法
福島県のハローワークへの掲示及び被災者支援事務局に掲示等の協力を願う
また、福島県内のメディアにご協力を願い、告知をしてもらう。
現地の避難場所での個別相談会を設け、本人より罹災証明書（後日でも可）又は住所
地を確認できる証書等（運転免許証）を提出の上、面談にて決定する。
（電話・FAX可能）
11. 入居決定
宜野座村と協議の上、宜野座村担当部署との面談等により各入居場所と援農支援農家
を決定（4月21日に説明会を開催します）
12. 受入農家の決定
宜野座村の協力により、援農者を求めている農家を選定し、作付面積や農産物の生産
量などを検討しながら、援農者数を15組30名の枠の中で、農家数を決定してもらう
その後、各農家に関する人数の割り振りを全面依頼する。
13. 受入体制
那覇空港までの旅費は沖縄県が支援し、生活費の貸与も10万円迄県が支援する。
那覇空港から宜野座村周辺の空物件や各部屋などや集合施設まではNPO法人食の
風が無料送迎する。初日は、農業就農センターにて歓迎会・懇親会を行う予定。
↓
その後、農業従事者同志のマッチングのため、宜野座村の受け入れ農家と被災者の夫
婦が面談及び懇親会を行い、数日後より援農プロジェクトを開始する。
↓
援農だけでは手が余る際は、宜野座村の耕作放棄地を全面開放していただき、（農機
具の無料貸与）耕地を耕し、新しい農地を福島チームで開墾してもらい、作物を収
穫までとり行う。収穫した農産物は、メディアに報告しながら、ファーマーズマー
ケットを開催し、収益を得るようにもしていきたい。（福島チームの収入になる。）
※いちごやジャガイモや小麦などの技術提供を福島チームからもらい、宜野座の農業従
事者より、マンゴーやパインその他 亜熱帯の農産物の栽培指導を受け、互いに刺激

になる1年間を過ごしてもらい、当協議会が支援活動を進めていきたい。
いずれは、宜野座村に永住する夫婦がいることにより、人口増加と経済の発展に結びつけるように取組みたいと考えている。
第一陣の活動は、援農と農業従事者とのプロジェクトである。

第2陣として、援漁と漁業従事者とのプロジェクト及び 福島が生産加工会社の人材からの技術提供をもらい、沖縄での加工工場の基盤作りや工場の設立・一部運営までたどりつけることを目的としている。

この活動は、今後、この支援事業に特化したWEB名「沖縄でニッポンを復興させる会」(※仮称 アドレス取得はこれからである)を公開し、全国にこの活動の内容を周知し、問い合わせが明確にできるように、活動を広げていくつもりである。

以上

今回のプロジェクト

【受入側の体制】 沖縄県宜野座村にて活動を開始

1. NPO 法人食の風&NPO 法人スローフードジャパン沖縄・奄美支部…雇用&運営
2. NPO 法人パーマカルチャーネットワークオキナワ…土壌&パーマカルチャー研修
3. 株式会社沖縄ロングステイ…住居の斡旋
4. 株式会社琉信ハウジング…住居の斡旋
6. JAおきなわ…農業器具や研修センター(宜野座村)の無料提供
5. 沖縄大学 教授オファー中 …アドバイザー
7. 宜野座村 産業振興課&農林水産課等

【送り出し側の体制】 福島県双葉郡大熊町周辺

1. 有限会社GO-YA 福島県福島市(本社) …農業従事者の紹介&フォロー
2. スローフード福島 福島県二本松市(本社) …農業従事者の紹介&フォロー
3. 福島県庁農林水産部
4. JA福島
5. 福島県双葉郡大熊町・双葉町役場のご担当者(会津若松市内の廃校や公民館に避難中)

今後のスケジュールに関しては、20日の記者会見後、第1回協議会を開催し、その後、皆様に報告いたします。

以上